

鳥越一穂 銅板油彩画の制作



鳥越一穂《XVI XI MMXVIII》2018 油彩／銅板 30.0×24.0cm



2020

2月8日(土) - 2月24日(月)

2月8日(土)、9日(日)は
作家本人が駐在します

【開館時間】 10:00～17:00 (入館は 16:30 まで)

【休館日】 2. 11 / 2. 18

【観覧料】 500円 (保護者同伴の中学生以下1名無料)

横浜本牧絵画館
Yokohama Honmoku Gallery

〒 231-0822
神奈川県横浜市中区本牧元町40-7
TEL : 045-629-1150 FAX : 045-629-1151

公式 HP : www.yh-g.org
関連 HP : www.iwata-museum.org
資料協力 : アトリエ・ラポルト

「鳥越一穂 銅板油彩画の制作」展について

当館の「作家・研究者支援プログラム（公募）」第一回展示として鳥越一穂氏の「銅板油彩画とその制作」を開催いたします。

このたびの第一回募集では、幸い高いレベルのご応募をいただきました。中でも鳥越氏のテーマは、写実絵画・細密描写が新しい角度から見直されている今日、一六〜一七世紀以来の伝統を持ちながら脚光を浴びることの少ない銅板油彩画をあらためて見直そうという、意欲的なものであります。

今回の展示では、銅板油彩画の特徴、略史から、実際の制作技法、完成作品までの全体を概観できるよう、また、実際の制作に資する手がかりとなることを念頭に構成しました。絵を見ることが好きな方にも、絵を描くことが好きな方にも、銅板油彩画へのご理解がいささかでも増せば幸いです。

横浜本牧絵画館

平滑で美しく、堅牢で油との相性もよい。
ただし、すぐく描きにくく。

つるつるとした光沢のある金属板に油彩画を描く。こう聞くと多くの方はそれが可能なか疑いを持つようです。しかし4百年前に描かれた銅板油彩画は実在し、結構な数が残されています。しかもかなり良い状態で。うまくゆけば4百年保たせられる。そのヒミツは画家を惹きつけるには十分な魅力です。

現存するかつての銅板油彩画はいかに描かれたのか。吸収性ゼロの平滑な銅板に対して、絵筆は滑り、固着は悪い。残された文献を当たり、銅板にやすりがけをする。ニク汁を塗布する。油と樹脂による絶縁層を塗布する。地塗りをする。どれもある時はうまくゆき、ある時は問題が浮上する。その理由も対処法も、教えてくれる人はいません。

そうした試行錯誤を経て、文献に記された内容を私なりに検証し得られた結果と課題をまとめた展示です。画家の苦勞の一端を作品と併せてお楽しみ下さい。

画家・鳥越一穂

横浜本牧絵画館

Yokohama Konmoku Gallery



当館は、横浜の名勝「三渓園」に近く、絵を見ることが好きな方、絵を描くことが好きな方のための、具象絵画を中心とする私設美術館です。

岩田榮吉 (1929-1982)



当館は「岩田榮吉」の作品を中心にコレクションしております。岩田榮吉は、東京藝術大学油画科を首席で卒業し、その後生涯バリで制作を続けた画家です。フェルメールなどに代表されるオランダ17世紀絵画の影響を受ける一方、トロンプイユ（だまし絵）を始めとして、伝統的な技法を用いた写実的な細密画を多く描きました。

公共交通機関からのアクセス

元町・中華街駅より

(東急東横線・みなとみらい線)

ホーム横浜寄りを上り、4番出口右方「山下町」バス停から横浜市営バス8系統「本牧車庫」行「本牧元町」下車 所要約30分・徒歩1分

横浜駅より

(JR各線、東急東横線、京浜急行、横浜市営地下鉄、相鉄線)

東口バスターミナルから横浜市営バス8系統・105系統「本牧車庫」行「本牧元町」下車 所要約40分・徒歩1分

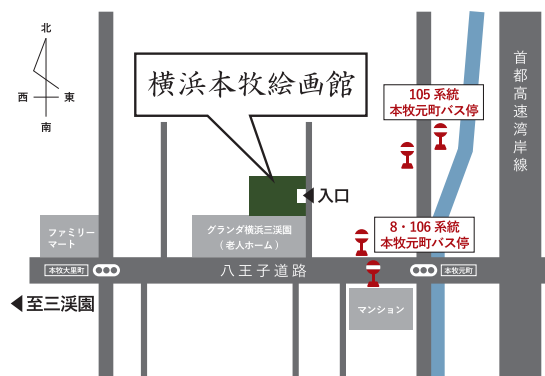
桜木町駅より

(JR京浜東北線)

横浜市営バス西口11番乗場から105・106系統 東口2番乗り場から8系統 「本牧車庫」行「本牧元町」下車 所要約30分・徒歩1分

磯子・根岸方面より

横浜市営バス58・99・101系統「和田山口」で下車、道の反対側の横浜市営バス4番乗場8・106・105系統「本牧車庫」行「本牧元町」下車 「和田山口」から所要約10分・徒歩1分



※専用の駐車スペースはありません。(近隣のコインパーキングをご利用ください)
※車いす用の乗車スペースが1台分あります。ご利用は事前にご連絡ください。

『鳥越一穂 銅板油彩画の制作』展示目録

会期：2020.2.8（土）-2020.2.24（月）

1. キャンバス VS. 銅板

| 分類 | 制作者 | タイトル | モチーフ | 制作年 | サイズ（mm） | 下処理法 |
|-------|------|-------------|---------------|------|-----------|-------------|
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | X IX MMXVII | 枝付きサンタローザ | 2017 | 120x180x1 | 鉛白地／ローラー、ヘラ |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XIII X MMXV | ロザリオピアンコ・イチジク | 2015 | 156x227x1 | キャンバス |

2. 古くからあった銅板油彩画

| 分類 | 制作者 | タイトル | モチーフ | 制作年 | サイズ（mm） | 下処理法 |
|-------|-----|------|--------------|-----|-------------|------|
| 銅板油彩画 | 不詳 | 不詳 | 銅板油彩の古画・聖母子像 | 不詳 | ほぼ200×200×2 | 不詳 |

3. 制作の実際

| 分類 | 制作者 | タイトル | モチーフ | 制作年 | サイズ（mm） | 下処理法 |
|----|-----|-----------------|------|-----|---------|------|
| 資料 | — | 銅板の準備と制作（サンプル付） | — | — | — | — |
| 資料 | — | スタック法鉛白（イースト菌版） | — | — | — | — |
| 資料 | — | 天然ウルトラマリン | — | — | — | — |
| 資料 | — | 動画 下準備から制作まで | — | — | — | — |

4. 作例 そしてこれから

| 分類 | 制作者 | タイトル | モチーフ | 制作年 | サイズ（mm） | 下処理法 |
|-------|------|------------------|---------------|------|-------------|-------------|
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | VII IX MMXVII | ソルダム×2 | 2017 | 100x100x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XIV X MMXVII | プラム | 2017 | 100x100x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XVIII IX MMXVII | ブルーベリー | 2017 | 100x100x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XXX IX MMXVII | サンタローザ | 2017 | 100x100x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | I X MMXVII | サンタローザ | 2017 | 100x100x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XV X MMXVIII | ロザリオピアンコ | 2018 | 110x110x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XIX IX MMXIX | 青梅pot | 2019 | 110x110x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | III VIII MMXVIII | ソルダムx2 | 2018 | 110x110x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XI X MMXVIII | ソルダム・半切サンタローザ | 2018 | 110x110x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | VI V MMXVIII | 赤ブドウ | 2018 | 110x110x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XV XI MMXIX | シャルドネ・イチジク | 2019 | 110x110x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | VIII IV MMXV | 蝶 | 2015 | 180x180x1 | 素地 |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | VI IX MMXVIII | マニキュアフィンガー | 2018 | 180x180x1 | 鉛白地／ローラー、ヘラ |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XVI VI MMXVIII | イチジク | 2018 | 180x180x1 | 鉛白地／刷毛 |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XXII IX MMXVIII | シャルドネ | 2018 | 180x180x1 | 鉛白地／刷毛 |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XV VII MMXVIII | 昆虫標本 | 2018 | 180x180x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XV VII MMXV | 蝶とトランプ | 2015 | 250x180x1 | 鉛白地／ローラー塗 |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | IV IX MMXVII | コノハムシ | 2017 | 250x250x1 | 鉛白地／ローラー、ヘラ |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XX VIII MMXVI | グラジオラス | 2016 | 300x300x1 | 鉛白地／ローラー塗 |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | XVI XI MMXVIII | チューリップ | 2018 | 300x240x1 | フラマン |
| 銅板油彩画 | 鳥越一穂 | VI X MMXIX | プラム・シャルドネ・ピン | 2019 | 370x300x1.5 | フラマン |

展示関係の用語解説

支持体 「基底材」ともいう。絵画の場合、絵具を乗せる素材である紙、板、キャンバスなどを指す。今回のメインテーマである銅板もその一つ。

キャンバス油彩画 木枠や板に張ったキャンバス（帆布）を支持体とする油彩画。使われ始めた15～16世紀頃は亜麻繊維による船用の帆布が転用されていたといわれるが、今日では綿や合繊なども用いられる。

銅板油彩画 銅板を支持体とする油彩画。15世紀頃、圧延技術の開発によって平滑な銅板が入手できるようになったこと、画面の耐久性が高く持ち運びしやすいことから、布教用の宗教画を中心にイタリアで多数制作された。その後フランドルの画家などがその耐久性とともに細密描写への適性に着目し、制作に取り入れて発展するが、19世紀以降は半ば忘れられた存在となっている。

マチエール 画面の質感、絵画表面の肌合いを指す。作者により、あるいはその意図により、また、使用する支持体・絵具・筆などによって様々に異なり、作品の個性を左右する。

地塗り・下地処理 キャンバスにせよ銅板にせよ、支持体素材にそのまま絵具を乗せても、にじみ・混色などにより思い通りの描画構成は難しい。支持体表面に描画しやすくするため加工することが必要となる。

有色下地（インプリマトゥーラ） 支持体の上に褐色系・青灰色系など有色の材料を用いて形成した下地のこと。油彩画面の明暗を際立たせる技法。

メディウム 絵具を作るために顔料と混ぜ合わせる溶剤。成分の固着を助けるためのアラビアゴムや樹脂などと、均質な希釈を助けるための乾性油や界面活性剤などから作られる。

グレージング 異なる色の絵具を透明に塗り重ね、下層の色との視覚的混色効果によって深みのある色を表現する油彩画独特の技法。

グラデーション 異なる複数の色の面の間の移行を緩やかに行う彩色法。

インパスト 固練りの絵具を筆やペインティングナイフによって厚塗りし、画面上に立体感、物質感を表現する技法。

ドライブラシ 絵具をつけず、あるいは絵具を拭き取った筆で、すでに塗ってある絵具をぼかしたり混ぜたりする技法。

鉛白顔料 古くから使われてきた白色顔料。白色を表現する絵具材として、また、地塗り材として用いられてきたが、毒性があるため、長期にわたって肌などに触れないよう注意する必要がある。

ウルトラマリン 群青色系の鉱物系無機顔料。天然には半貴石ラピスラズリの主成分で、アフガニスタンなど産地が限られ、希少な絵具材として珍重される。「フェルメールブルー」としても知られる。

トロンブルイユ 見る人のいる現実の世界の一部とみまがうほど写實的に描かれた絵画。一般には「だまし絵」と訳されることが多いが、本来は、錯視効果を狙ったイラストやアニメ風の壁画などは含まれない。